

## グローバルヘルス戦略策定の方向性についての一考察

星野俊也(大阪大学)

## 1. グローバルヘルス戦略—「安全保障」の観点から

## (1) 人間の安全保障の危機としての新型コロナ

新型コロナは「世界の人々の命・生活・尊厳、すなわち人間の安全保障に対する危機」

⇒「人間の安全保障の理念に立脚し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向け、『誰の健康も取り残さない』という目標を掲げることが重要」

(菅総理の国連一般討論演説、2020年9月26日)

## (2) 安全保障の要としての健康・保健・衛生⇔分断の進む世界

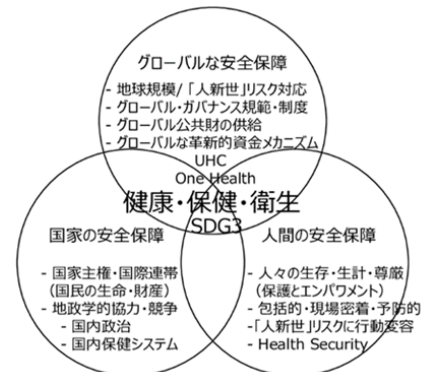
「健康・保健・衛生」は、「グローバルな安全保障」と「国家の安全保障」と「人間の安全保障」の結節点。SDG3として世界共通の達成目標の一つでもある。

他方で、世界(大国を含む国家間及び各国内)では分断・格差・不平等が急速に拡大。

⇒グローバルな制度設計(共通規範の合意、公共財の提供・分配、資金の調達・配分、プログラムの実施)

グローバルヘルス分野では、国際機関(国連・IFI)、官民連携基金が乱立、さらなる“交通整理”の必要は？  
⇒「ユニバーサル」なヘルス・カバレッジとは：「すべての人」への保健サービスとの意味に加え「すべてを統合する」制度的な裏付けが必要。(さもないと、資金が過度に分散され、機会費用も増加。)

⇒「ユニバーサル・ヘルス・アーキテクチャー」(仮称)の形成に向けた外交努力を。



## 2. 新型コロナと新世代の人間の安全保障

## (1) 人間の安全保障アプローチの特徴：

人々の境遇改善に必要な包括性・分野横断を指向。

⇒縦割り排除の「ヘルス+」の視点。(参考)One Health

## (2) 「新世代の人間の安全保障」に向けて

旧世代：人々に対する regressive な脅威に

マイクロ/コミュニティベースの保護と能力強化。

新世代：人々と人類全体に対する existential な脅威に

先進国も含めマイクロ+マクロの対応、

「人新世」リスク予防・軽減の行動変容も。

人間の安全保障アプローチの政策的含意：旧世代と新世代の比較図

	旧世代の人間の安全保障	新世代の人間の安全保障
主体	政府・国連機関・非政府主体	政府・国連機関・非政府主体 人々(個人・集団)
対象	人々(グローバルサウス)	人々(グローバルサウス及びノース) 人類全体・社会全体
脅威	コミュニティの人々への多様で分野横断的な、主に身体的脅威(「保護する責任」除く)	コミュニティの人々への多様で分野横断的な、身体的及び精神的脅威(「保護する責任」除く) 「人新世」リスク、新興科学技術脅威、新たなヘルス危機、等
アプローチ	人間中心・包括的・現地密着・予防的な保護・能力強化	左に加え、グローバルな公共財、ガバナンス規範・制度、等
目標	「誰一人取り残さない」	「誰一人取り残さない」+ SDGs

## 3. 日本の関与…現在が「大戦争なき秩序変革」の好機であることをとらえ、リーダーシップを。

## (1) 健康・保健・衛生分野での日本の実績とリーダーシップ

「グローバル(ユニバーサル)ヘルス外交」を日本外交の優先分野の一つに「パワー・ポリティックス」の展開を。

⇒政治力：G7、G20、国連・IFI、「UHC フレンズ・グループ」等を主導し、UHC(規範・制度)主流化と仲間づくり。

人材力：グローバルヘルス人材の組織的増強・戦略的配置(含、WHOの事務局長・高官の獲得チャレンジ)。

資金力：保健・財政ネクサス論の推進。例)「G20財務大臣・保健大臣合同セッション」

技術力：医薬品・医療機器等の科学技術イノベーション躍進…国際貢献+グローバル・ビジネスの展開。

## (2) 機を作り、機を捉える—「ポスト・コロナ」の世界秩序形成に向けたモメンタムを作れるかがカギ

「元の日常」への揺り戻しに抗し、「ポスト・コロナ」の世界秩序形成につなげるリード国としての外交努力を。

⇒1945年(国連創設)時と2021年の類似点と相違点

類似点：全世界の国・地域・人々を巻き込む「言語に絶する惨害」を国際社会が連合して撃退。

1945年：連合軍が第二次世界大戦における枢軸国の撃退を見越し、戦後秩序を構想

現在：日本を含むリード国がパンデミック克服後を見越し、「ポスト・コロナ」秩序を構想すべき時。

相違点：1945年の日本は撃退される側だったが、現在の日本はパンデミックの克服に指導力を発揮する大国。

1945年は“敗戦国”だったが、現在は“戦勝国”として新秩序を作る側の主要国になりうる立場を活用すべし。

(了)

\*ところで、「ユニバーサル・ヘルス」が「グローバルヘルス」か？力点の違いはどこか？